

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	26000014	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	プロテアソーム：動作原理の解明と生理病態学研究		
研究代表者名 (所属・職)	田中 啓二 (公益財団法人東京都医学総合研究所・生体分子先端研究分野・所長)		

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

本研究は、プロテアソーム研究を牽引してきた研究代表者が、その動作原理と生理病態を解明しようとする重要課題への取り組みである。動作原理に関する1課題並びに生理病態学に関する2課題について、それぞれ着実にデータを蓄積しており、研究成果は積極的に公表されてきている。現在はまだ予備的な段階の研究もあるが、更に解析を進めることにより、目標を達成することを期待する。

本研究において、研究代表者が今までに行ってきた研究の延長ではなく、更に大きなブレークスルーの達成を期待する。

【令和2(2020)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	動作原理に関する課題では、プロテアソーム顆粒がメンブレンレスオルガネラとして核内におけるタンパク質分解センターとして働くという大きなブレークスルーがあった。分子病態研究では、パーキンソン病の発症に関わるプロテアソーム関連分子の作用機構や、免疫プロテアソームと胸腺プロテアソームの作用機序の解明が大きく進んだ。当初の目標が順調に達成されたと言える。